

(1) 離島航路（沼島汽船㈱）の現状 I

参考資料 1-1

1. 定期航路

(1) 運航実績

単位：航海、%

年度		1 5	1 6	1 7	1 8	1 9
洲 本 航 路	航海数	277	284	304	298	133
	欠航数	61	67	39	42	16
	欠航率	18.1	19.1	11.4	12.4	10.7
灘 航 路	航海数	3,584	3,536	3,595	3,608	3,622
	欠航数	58	118	47	28	54
	欠航率	1.6	3.2	1.3	0.8	1.5

※ 年度は前年 1 0 月 1 日から翌年 9 月 3 0 日をいう。(以下同じ)

(2) 輸送実績

単位：百人、%

年度		1 5	1 6	1 7	1 8	1 9
洲 本 航 路	輸送人員	31	28	26	21	14
	(前年度比)	(99.7)	(87.9)	(94.7)	(79.8)	(68.6)
灘 航 路	輸送人員	1,126	1,138	1,087	1,137	1,207
	(前年比)	(91.4)	(101.1)	(95.6)	(104.6)	(106.1)
	除く定期券・ 回数券 (前年度比)	870 (93.1)	870 (100.0)	833 (95.8)	870 (104.4)	906 (104.2)
合 計	輸送人員	1,157	1,165	1,114	1,158	1,221
	(前年度比)	(91.6)	(100.7)	(95.6)	(104.0)	(105.5)
	除く定期券・ 回数券 (前年度比)	901 (93.3)	898 (99.6)	859 (95.7)	891 (103.4)	920 (104.3)

※輸送人員は、子供 2 人で 1 人に換算

2. 不定期航路（届出）運航実績

単位：回

年度	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0
運航回数	0	4	1 1	1	1 0	3

3. 欠損額

単位：百万円、%

年度	15	16	17	18	19
実 質 欠 損 額	88	96	101	116	94
(前年度比)	(98.9)	(109.6)	(104.8)	(115.4)	(80.6)

4. 離島航路補助

国は「離島航路整備法（昭和 27 年法律第 226 号）」に基づく補助対象航路に対して、全国一律的な観点から、標準的な賃率や経費単価に基づき算定する標準化した欠損額を国庫補助しており、地域の実態に対応した地方自治体（兵庫県・南あわじ市）の支援と併せ欠損額は補助・補填されている。

5. 離島航路（沼島汽船）の課題

（1）観光遊覧事業の展開

不定期航路事業（届出）は、航路を定めないスポット的な遊覧事業であり、同一航路の遊覧事業を継続的に行えば不定期航路事業（許可）となる。

現在の補助制度で不定期航路事業（許可）は、兼営事業として当該不定期航路事業にかかる費用（船員費・船舶修繕費・燃料費などの運航費用、保険料・利子・減価償却費・店費などの営業費用）が離島航路補助欠損金から除外されるとともに、船員に関する特例を受けられなくなり船員を増やさざるを得なくなるため、現状よりさらに厳しい事業運営を強いられることとなる。

（2）陸上のアクセス

土生港への淡路島側からの公共交通は、南淡路市のコミュニティバスのみであるが、本州・四国からの高速バスまたは淡路島内からの路線バスとの接続点である陸の港西淡、福良等から土生港へ行く便が 3～4 便しかない。また直行便が 1 便しかなく、残りの便は乗り継ぐ必要がある。

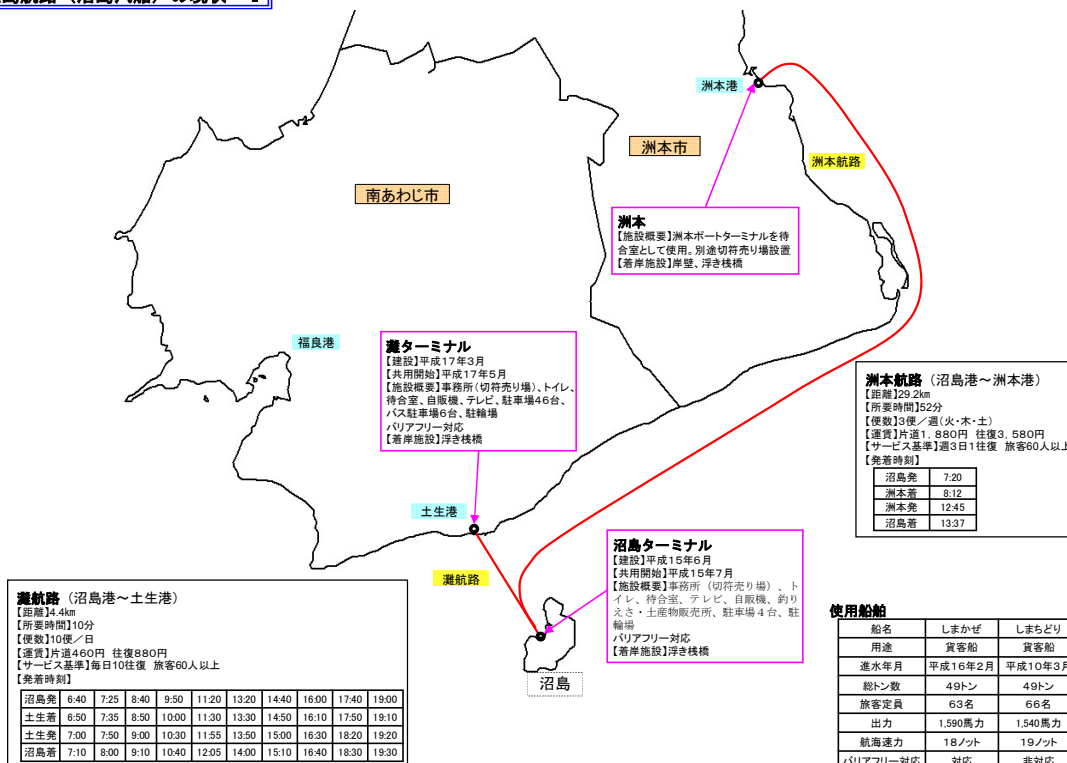
6. 離島航路補助制度改善の動き

国土交通省海事局では、離島航路が人口減少、高齢化、地方財政の悪化等による輸送人員の減少、さらに原油価格の高騰による欠損増大で経営状況が悪化していることから、離島航路補助制度について、その問題点、限界点を整理するとともに、その改善方策について検討を行うため、海事局長の懇談会である「離島航路補助制度改善検討会」を設置した。

平成 20 年 8 月 8 日、これまでの欠損を補助するだけの制度から、離島振興関連施策とも連携する総合的な支援制度に抜本的な見直しを図ることを基本方針とする「中間とりまとめ」を発表し、年度内に最終報告が出される予定となっている。

離島航路（沼島汽船）の現状 I

参考資料 1-2



（第1回地元部会資料）

(2)「ぬぼこの会」概要

設 立：平成19年3月

代表者：中川宜昭(神宮寺住職)

会 員：郷土史部員等20人(実働7~8人)

設立のきっかけ：国生みツーリズム実行委員会より地元の人で案内をと言う依頼を受けて設立した案内ボランティアグループ。

ねらい：

- ① 郷土の歴史を知ることにより先人の歩みに学ぶ。
- ② おのころ神話を語り継ぐ会。
- ③ 来島者への案内。
- ④ 郷土を愛し故郷を誇りにもって生きて欲しい！(子供たちに話をしてそのお手伝い)。
- ⑤ 公民館活動の一環として。
- ⑥ 沼島の活性化に繋げたい。経済効果など。

案内活動実績：平成19年 823人

平成20年 2223人

来島者：関東方面、兵庫県、淡路島、鳥取県、広島県、大阪府、九州他

代表的なモデルコース



沼島ガイドコース

① 1時間コース

A 沼島港 ⇒弁天社(1) ⇒上立神岩(2) ⇒沼島港

② 2時間コース

B 歴史コース

沼島港 ⇒神宮寺(3) ⇒八幡宮(4) ⇒五輪塔(5) ⇒沼島庭園(6) ⇒上立神岩(2)
⇒沼島港

③ 半日コース

C 景観コース

沼島港 ⇒弁天社(1) ⇒神宮寺(3) ⇒八幡宮(4) ⇒五輪塔(5) ⇒沼島庭園(6) ⇒上立神岩(2)
⇒南山散策・おのころ神社(7) ⇒腰掛・衣掛岩(8) ⇒沼島港

D 自然観察コース1

沼島港 ⇒神明社(9) ⇒江の尾・黒崎(地球のしわ) ⇒灯台 ⇒山の神さん(10)
⇒上立神岩(2) ⇒沼島港
or ⇒南山・波切地藏尊(11) ⇒海水浴場 ⇒沼島港

E 自然観察コース2

沼島港 ⇒上立神岩(2) ⇒南山 ⇒古水浜(12) ⇒おのころ神社(8) ⇒腰掛・衣掛岩(9) ⇒沼島港

説明資料

(1) 弁天社

弓矢を持つ姿の女神で海の守り神

(2) 上立神岩

「立神さん」は沼島のシンボル。高さ 30m

(3) 神宮寺

沼島三ヶ寺で一番古いお寺。安土桃山時代に作られたのではと言われる。枯山水の庭は県名庭園に選ばれる。

(4) 八幡宮

室町初期(1436年)梶原俊景の創建。拝殿は逆羅針盤や沼島古地図、伝説・故事に因んだ絵馬が奉納されている。

(5) 五輪塔

梶原景時の墓と言われる。(県重要文化財) 松香石で作られた鎌倉初期の様式。

(6) 沼島庭園

足利義植第十代将軍が作庭したとの説。極楽浄土を具現した県最古の庭の一つ。

(7) おのころ神社

いざなみ、いざなぎ二神を祭る。広く全国的に信者が居る。

(8) 腰掛・衣掛岩

沼島上臈の伝説。後醍醐天皇の皇子尊良親王のお妃が鳴門より流れ着き一休みした岩。衣服を乾かした岩。

(9) 神明社

おのころ神社と向かい合わせの山にある。二神を祭り、祭礼はおのころ神社の一日後に行われている。

(10) 山の神さん

鉄王鑄荷大明神。海人族が祭っていた。1月15日が祭礼日。モチ撒きがある。

(11) 波切地藏尊

南海丸沈没による死者の慰霊のために建立された。

(12) 古水浜

沼島に運動場がなかった頃学校の運動会が行われていた。昭和年代、春秋の子供たちの遠足の場所。

*ぬぼこの会で行っているガイドは、2時間コースの「B 歴史コース」が殆どである。

時々、自然観察希望のグループがあり。シダや草花を一緒に勉強している。

*時間的にゆとりのあるグループの時には、神宮寺で中川住職の歴史や法話等を聞くこともある。

(3) 観光による地域づくりの先進事例

①広島県呉市豊町御手洗（住民参加、おもてなし）

御手洗は、江戸時代に開かれた港町で、北前船交易で栄えた。平成6年、江戸情緒漂う御手洗の町並みが重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことを契機に、島民による観光ガイド、美化運動、軒先の一輪挿しのおもてなし等に取り組んでいる。



写真提供：伊藤政美



出典：広島県 HP

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1170749564084/index>

②北海道釧路市阿寒町（住民参加、おもてなし）

阿寒湖温泉では、観光客の減少に危機感を感じ、外部の専門家等も参加し、阿寒湖温泉のマスタートプランを作成し、ビジョンの明確化と温泉街全体での問題意識の共有化を図っている。

また、温泉街のおかみさんたち有志の井戸端会議から「まりも倶楽部」が結成され、温泉街の手作りマップ、地元食材（ザリガニ、シカ）料理の開発（ザリガニおこわ、シカ肉ラーメン等）、花いっぱい運動等に取り組んでいる。この他、地元漁協が阿寒湖原産の高級食材ヒメマスを観光客や地元の子どもたちが気軽に食べられるようばら売りなど協力している。

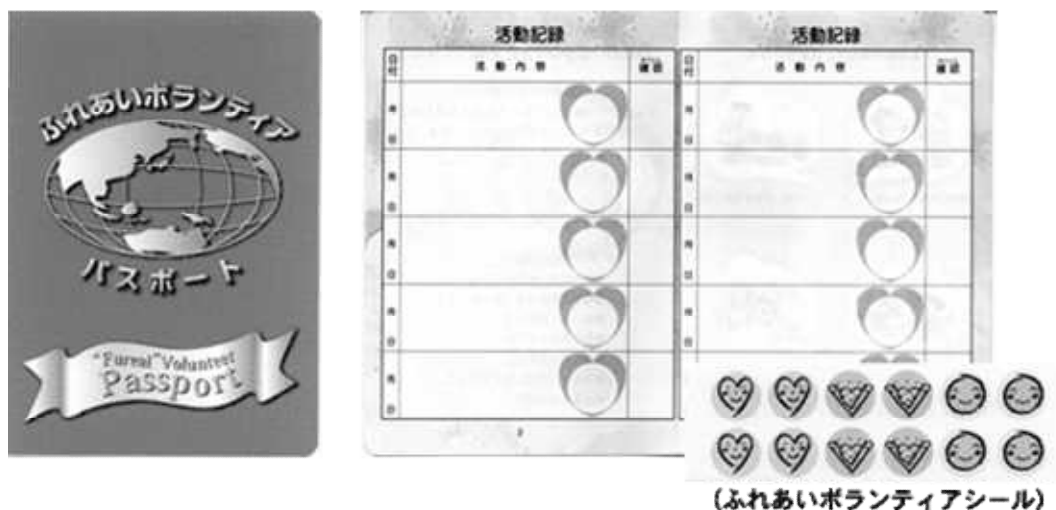


- ・ 2001 年から活動開始
- ・ 広い世代が参加
- ・ 「空いている時間に、無理せず楽しみながら活動する」がコンセプト
- ・ 表彰や報道で取り組みが知られることで仲間が増えた。

出典（写真）：えぶろんねっと（釧路のフリーペーパー） <http://www.s-apron.com/news/apronpeople/06marimo.html>

③千葉県千葉市立源小学校（子どもたちの地域参加）

5年生と他の学年の希望者にボランティア手帳（ふれあいボランティアパスポート
[財団法人さわやか福祉財団作成（無料）]）を発行し、生徒がボランティア活動に参加
するごとにシールを貼る。参加する活動は、地域のごみ拾い、落ち葉払い等。活動に1
0回参加した時点で、子どもたちは手帳と感想文を校長に提出、がんばった子どもには
「ボランティア賞」を与え励ましている。休み時間・放課後に校長室に立ち寄る子ども
が増えた。また、ボランティア活動を契機に、地域の子どもと大人が気軽に挨拶できる
ようになったり、地域づくりに参加している気持ちが子どもたちの中に芽生えた。



(出典) 文部科学省 HP (http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/houshi/kekka/04051201/005/001.htm) をもとに国土交通省神戸運輸監理部
総務企画部企画課作成

④日間賀島の取り組み

日間賀島の詳細 (URL <http://www.himaka.com/>)

場所：愛知県知多半島の先端から 2.4km の沖合いにある名古屋から一番近い離島。

特徴：高速船の乗船時間は 7, 8 分であり、沼島と似た距離である。

島の周囲は、約 5.5km であり、徒歩での散策でも約 2 時間で一蹴できる離島である。

主な取り組み

観光客へは、下記のような漁業体験、歴史文化財巡りをはじめとする島巡り、海岸での自然と一体になって体感するビーチセラピーのプログラム、そして子供を対象にした体験学習を提案している。

1. 漁業体験および釣り

(1) 高速漁船クルージング

高速漁船クルージングとは、漁船（漁師さんの使用船）で島一周する。三河湾の自然と触れ合い。
最新鋭の漁船なので、30ノット（約 60km）のスピードも体感出来る。

所要時間：約 30 分（2 人～）



(2) 堤防釣り

島を囲う堤防(沖堤)は釣りの絶好ポイント。
三河湾と伊勢湾の潮流が重なっている日間賀島周辺ならではの
大物釣りも楽しめる。貸し竿のサービスも高速船乗り場近くで行っている。



(3) 遊覧と釣り

漁師になった気分、漁船に乗って島の周辺を遊覧する。
ポイントでは五目釣りを楽しめる。
その道のプロが教えてくれるので釣果は保証?!

所要時間：約 60 分（4 人～）



(4) キス網漁

漁船に乗って漁場へ。魚網の取扱いを習い、
網からキスを外したり、操船体験も行う。

所要時間:約3時間(1隻10人迄)14:00より実施。土曜日可。

5月～9月限定 所要時間:約90分



(5) 底引網漁

本格的な漁業体験ができる底引網漁。漁船に乗って
漁場へむかい、季節ごとのさまざまな魚介類を水揚げする。

所要時間:約1時間



(6) タコつぼ漁

事前に仕掛けておいたタコつぼを引き上げ、
タコつぼを住みかとしていたタコをとる。



(7) タコつかみどり

日間賀島でしか体験できないタコつかみどり。吸い付く
吸盤・グニャリとした感触は誰もがはじめての体験。
意外と盛り上がるアクティビティである。

7月～9月限定

所要時間:約30分～約60分(10人～50人)



(8) 潮干狩り（島外者）

日間賀島のアサリは通常の3倍の出汁が出る。

おいしさ満点で東京、名古屋のデパートの多くでも日間賀島産アサリは少し高めのお値段なので、春の行楽にぜひ、潮干狩りを！とPRしている。また、日間賀島漁業協同組合指定の貝袋（有料）を、購入して潮干狩りをするように促している。



2. 歴史文化財巡り・島巡り

(1) 大光院

知多新四国八十八ヶ所の霊場のひとつ、大光院。

天候にも左右されるが、冬場の晴れの日、風があり、空気が乾燥している時に、なんと富士山が見えることがある。



(2) 安楽寺

「タコの島 日間賀島」の由来ともなった蛸阿弥陀如来がご本尊の安楽寺。漁師の網に掛かり、引き上げられた如来様を大ダコがしっかりと守っていたからと言われている。法話と民話も聞ける。

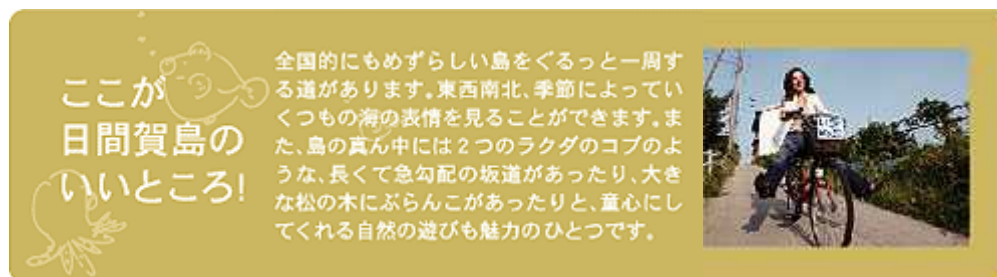


3. 島巡り

(1) サイクリング

歩くと少し距離のある日間賀島も自転車なら楽なので、潮風とともに、絶景ポイントやお土産屋さん、そして島に一軒だけあるたこ焼きのお店を探すサイクリングを提案している。



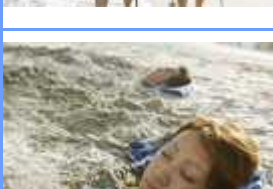


4. ビーチセラピー

ゆったりとした海岸には、自然と一体になって体感するビーチセラピーのプログラムが用意されている。

ビーチセラピーとは「海は生命の源」里海をテーマにした、心もからだも癒してくれるプログラムであり、海水の成分は羊水と同じで多くのミネラル分を含みマイナスイオンを発生させ潮風となって私たちに優しく包んでくれる。

春・夏・秋・冬、季節のなかで朝・昼・夜と、どの時でも島で移りゆく自然と過ごす。これだけでも清々しいが、さらに楽しめるのは、ビーチに設置されたウッドデッキでマッサージをしたり、ぼお〜と遠くの海岸線を眺めたり、波打ち際を潮風を感じながら歩いたり、海の上でゆったり浮かんだり、砂浴をしたりという点である。

1	潮風 リラクゼーション		ウッドデッキのベッドで、爽やかな潮風を浴びながらリラックスできます。
2	リラクゼーション ・マッサージ		リラクゼーション・マッサージで疲労回復をサポートします。
3	海水フローティング		「海は生命の源」海水の中でポールで浮かび、波のゆらぎで身体をほぐします。
4	ビーチ・ポール ・ウォーキング		マイナスイオンいっぱいの潮風を浴びながら ポールを持って砂浜を素足で歩き、足ツボを刺激します。
5	砂浴		白砂の重さと温かさが、身体の血行のとどこおりを改善します。

5. 子供を対象にした体験学習

日間賀島には、海を楽しむ自然な道具と専門のインストラクターが滞在し、

また、海の危険にあわないようにライフセーバーが対処方法を教えてくれるプログラムがある。

他にも、島の漁師さんが教えてくれる漁業体験や魚のさばき方の体験もある。

さらに、イルカセラピーでは主に自閉症を対象としたイルカ介在療法が行われている。

1	アドベンチャー ランド		ターザン・ロープでターザンにな って、海の中へ一直線！ 期間／5月～8月
2	イルカとの ふれあい		サンセットビーチ（西浜海水浴 場）で泳ぐイルカを見にきてくだ さい 期間／5月～7月＜予定＞
3	シュノーケリ ング		呼吸法をマスターしたら海中水 族館へ、レッツ・ゴー！ 期間／7月～8月
4	いかだ作り &遊び		すぐには崩れない丸太のいかだ は家族みんなの知恵の輪だ！ 期間／7月～8月
5	ライフセーバ ー教室		身近な物を使ってセルフ・レスキ ュー。 レスキューボード体験も できるよ。 期間／7月～8月
6	磯のミクロ アドベンチャー		磯の生きもの達の世界を覗いて みよう。「箱めがね」を使った、 「体験型タイドプール・ウォッチ ング」。 期間／7月～8月
7	シーカヤック		パドル操作を覚えたら、沖に向か って冒険スタート。自分達の力だ けが頼り。ウミネコを近距離観 察。 期間／5月～8月

8	たこの つかみ取り		日間賀島でしか体験できないタコつかみ取り。吸い付く吸盤は誰もがはじめての体験です。 期間／5月～10月
9	地引き網		海水浴場の沖に仕掛けた網を海岸に全員の力を合わせて引き込みます。何が捕れるかはお楽しみ。 期間／4月～10月
10	調理体験		アジの干物作りに挑戦！出来上がった干物は後日郵送。出来ばえは、帰った後のお楽しみ。 期間／4月～10月
11	漁業体験		漁村での生活をとおして、自然に触れ、漁師が先生の本格的漁業体験をします。底引き網漁から民宿ホームステイまで。 期間／4月～10月

補足事項

日間賀島のおもてなしのPR

「よ～来てくれたなあ」
自然が島人が微笑んでいます

日間賀島の一番の魅力は、育んできた
自然環境とひとへの思いやり、
そこから生まれる空気感なんです。



(出典) 日間賀島観光協会 HP (<http://www.himaka.com/>) をもとに神戸大学支援合同会社作成

⑤笠岡諸島の取り組み

笠岡諸島の詳細

場所：岡山県の西南端にある笠岡市は、南部は瀬戸内海に面し、西は広島県に接している。その沖の瀬戸内海に浮かぶ笠岡諸島は、30 有余の島を飛石状に連ねて香川県に接しており、このうち、高島、白石島、北木島、大飛島、小飛島、真鍋島、六島の7 島が、人々が生活する有人島で一部離島。



笠岡諸島全景

背景：離島の市町村では全国トップクラスの有人島保有市であり、昭和30年代の最盛期には全島合わせて10,000 人余りの人口が現在はずか2900 人と3 分の1 以下に激減、高齢化率も55%と少子高齢化の先進地といえる地域である。

笠岡市にとって島嶼部の過疎高齢化は大きな行政課題であると同時に、島には陸地部では失いかけた自然と人情が残っており、大きな宝ともいえる存在だった。島の活性化を図るためには個々の島が自らのことばかり考えていたのでは全体の発展がないとの教訓から、島同士の連携を密にするために島民有志の発案により平成10年から6島合同の「島の大運動会」を開催、行政もそれに合わせ平成13年4月から島専属の市の応援部隊「島おこし海援隊」組織し、島に本拠を置き住民と共に汗を流しながら島づくりを進めていく体制づくりを行っている。平成14年には6島のそれぞれの特徴を活かしながら島おこしの島民組織「電脳笠岡ふるさ島づくり海社」を設立、平成18年9月に法人格を取得し「NPO 法人かさおか島づくり海社」と改称し現在に至っている。

特徴：離島という地理的に隔絶された地域は行政任せにしていると物事が前進しないだけでなく、極端に言えば生命にもかかわる問題にもつながるという危機感を持っている。かえって、それが島の自立性を養成しており、島の運動会により島同士の連携が図れ、問題の解決策として島民の動きが出てきたともいえる。

行政と住民とが共に汗を流して地域を良くしたいという「情熱」が島づくり海社という組織でまとまった形になり、数々の事業を組織的に展開することにより問題解決を図っている。

主な取り組み

(1) お弁当「しまべん」の開発

島の特徴としての「海の食材」をアピールして観光の資源とすると共に地域の食のサービス向上を目的に、「島の人が」「島の食材で」「島で作る」お弁当「しまべん」を開発。笠岡諸島6島がそれぞれの島の食材をふんだんに使い、島の特産品として陸地部のアンテナショップや各種イベントで定期的に販売している。また、特に真鍋島では空家対策事業でIターン*された方が職として「しまべん」づくりを行い、島での食のサービス維持のために「福祉的に島の高齢者への給食サービス」や「観光客への昼食の提供」を行っている。



6島の島の素材で作った「しまべん」

平成19年9月5日には、笠岡諸島の特産品を販売するアンテナショップ「ゆめポート」が笠岡市の駅前商店街の一角にオープンし、なかなか手に入らなかった「しまべん」も定期販売や島の特産品が陸地部で気軽に買えるとあって評判は上々である。販売ルートの確立により、地域の特産物の掘り起こしや島にあった作物の新しい栽培等に大きな期待がかかっている。

(2) 過疎対策；空家対策事業

平成14年に高島支社の事業としてスタートし、平成15年に4物件を基にIターン者を募集した結果、マスコミの助けもあり3ヶ月で空家が埋った。

その後、「団塊の世代の田舎暮らし志向」もあいまって北木島・真鍋島・白石島に事業が広がり、平成19年10月現在21世帯46人のIターン者を島に受けいれている。高齢化の著しい島の空家対策は地域を維持する人材の確保のみならず、仕事を作っての若年世帯の移住もあり、小中学校の子供の確保にも大きく貢献している。

(3) 研修の受け入れ

・各島で廃校を活用し、地域の資源に再生

北木島では平成13年に廃校になった旧北木小学校の空き校舎を利用して、平成17年から中学校の夏季研修の受け入れを開始し、平成19年には3団体の研修受け入れを行った。白石島では平成13年から旧小学校の講堂を利用して、古くから行われていた機織りを復活させると共に、旧運動場の遊休地を利用して綿の栽培や島の草木で染めも行うなど一貫した機織り工房として再生し、現在は体験メニューとして白石島の観光プランに組み込まれるようになっている。

・椿油搾り

古くから藪椿が群生しており、椿油を収穫していたが、近年途切れ、中学校の総合学習のテーマとして復活、平成15年より「椿油搾取機」を導入し、零細ながら椿油搾りを復活させ、現在では島を挙げての椿を活かした島づくりを行っている。

*Iターンとは、都心部で生まれ育った人が、自然に恵まれた環境や人とのふれあいを重視したライフスタイルなどを求め、地方の企業に転職し移住する



平成16年に開催した「空家めぐりツアー」



神戸の中学校の夏季キャンプを島に誘致



椿油搾りに合わせて陸地部からも研修に

(4) 環境保全

白石島では、綿作りや機織りの地域の特産品づくりを行うと共に、高齢者のための代行システム「助っ人クラブ」を立ち上げ、島民のニーズに対応している。平成18年から岡山大学との共同研究で環境保全プログラムの実践の場として環境保全の取り組みを行っている。

(5) ゴーヤの販売

花の島として名を馳せていた真鍋島は、高齢化のために花の生産農家が減少し、平成13年ごろからそれに変わる作物として「ゴーヤ」作りをはじめ、現在では島の特産品として県下の生産地になっている。真鍋島ではゴーヤを使った加工品も試作、製品化し「干しめめゴーヤ」「ゴーヤうどん」「ゴーヤ飴」「ゴーヤジャム」「ゴーヤの佃煮」等を生産しており、ほとんどが70歳以上のため所得獲得よりも、健康増進、遊休地の活用といった性格が強いようだ。

(6) 水仙の紹介

六島は、水仙と灯台で知られる人口85名足らずの島で、島民を上げて自生する水仙を移植するなどの作業をすすめる、水仙の島としての整備を年次的に行っている。水仙の咲く1月から2月の間には地元有志が定期的に軽食のサービスをするなどして観光客をもてなしている。

(出典) NPO 法人かさおか島づくり海社 HP (<http://www.shimazukuri.gr.jp/>) をもとに神戸大学支援合同会社作成

(4) 報道記録

報道機関名	報道日	報道内容
関西テレビ	H20.11.04	事業概要、活動状況
サンテレビ	H20.09.02	第1回委員会、事業概要
	H21.01.29	沼島シンポ
	H21.02.09	沼島報告会
読売新聞	H20.09.03	第1回委員会、事業概要
	H20.11.02	第3回委員会、活動状況
朝日新聞	H20.10.10	第2回委員会、活動状況
	H20.11.22	第3回委員会、活動状況
	H21.01.30	沼島シンポ
神戸新聞	H20.09.03	第1回委員会、事業概要
	H20.10.11	第2回委員会、活動状況
	H20.11.22	第3回委員会、活動状況
	H20.12.27	活動状況、ぬぼこの会
日本経済新聞	H20.09.05	事業概要
日本海事新聞	H20.08.26	事業概要
	H21.02.05	沼島シンポ
日刊海事通信	H20.11.25	第3回委員会、活動状況
	H21.01.30	沼島シンポ
トラベルニュース	H20.09.25	事業概要、活動状況
フェリー・内航情報	H20.09.01	事業概要
	H20.11.24	第3回委員会、活動状況
	H21.01.26	沼島シンポ
	H21.02.16	沼島シンポ・報告会
読売新聞（ネット配信）	H20.09.02	第1回委員会、事業概要
トラベルニュース（ネット配信）	H20.09.19	事業概要



関西テレビ「アンカー」(H20. 11. 04)



サンテレビ「ニュースシグナル」(H20. 09. 02)



サンテレビ「ニュースシグナル」(H21. 02. 09)

沼島の観光資源発掘へ

赤字航路再生 神大・国交省・住民で委員会

利用者の減少や原油高の影響で危機にある離島航路を「再生」しようと、神戸大と国交省神戸運輸監視部が連携し、2日、地元住民らを交えた調査研究委員会を設立した。南あわじ市の沼島を対象に、官学民が知恵を出し合い、新たな観光資源の発掘などに取り組む。来年1月をめどに成果を発表する。

元で観光案内などに取り組む住民グループ「ぬぼこの会」などでつくる委員会(13人)が発足。委員長には正司健一・神戸大教授が就任した。

同監視部の職員は低迷する航路の現状を説明。住民グループは、豊かな自然や歴史のある寺社、ハモ、アジといった豊富な水産物をPRして、「地元の活性化につなげたい」と意見した。

今後、現地の沼島でも会合を重ね、来年1月に開催するシンポジウムで新たな「観光プラン」を公表する。同監視部は「ほかの離島の参考になる思の長い観光モデルにしたい」としている。

また、同監視部は11日、流通科学大(神戸市西区)とも連携し、観光分野でミナト神戸に詳しい人材を育成する協定を結ぶ。来春から同監視部の職員らが講師となつて、神戸港の歴史や文化、海運などの講義をする。

沼島は淡路島の南約5キロに位置し、周囲約10キロで、約600人が居住。古い神話や伝承が残る。淡路島とを結ぶ2航路が島民の生活の足だが、毎年1億円前後の赤字を計上し、国などの支援を受けている状態だ。

この日は神戸市内で、神戸大、神戸運輸監視部、地



離島の航路を守る観光活性化策について話し合うメンバーら(神戸市内で)

沼島の魅力をDVDに

調査研究委 旬の魚紹介アイデアも
中間報告

南あわじ市の離島・沼島一帯の観光や航路活性化に向け、国土交通省神戸運輸監視部と神戸大、地域住民でつくる調査研究委員会(委員長・正司健一・神戸大教授、13人)は21日、神戸市中央区で第3回会合を開き、提言の中間報告をした。

観光ボランティアのグループ「ぬぼこの会」と漁業関係者が連携して、観光客に旬の魚を紹介したり、島の魅力を紹介するDVDを制作し、旅客ターミナルなどで放映したりするアイデアが盛り込まれた。

委員会は年内に提言をまとめ、来年1月下旬に神戸市内で開くシンポジウムで発表する。

観光に活路探る

淡路・沼島航路 調査委が現地へ



観光ボランティアガイドの案内で、島内の名所を見てまわる委員ら＝沼島

淡路島の南に浮かぶ沼島への観光客を増やして離島航路の維持を図ろうと、国土交通省神戸運輸監理部と神戸大学、地元住民らがこのほど「離島単独航路の維持活性化調査研究委員会」を設立した。9日、委員や大学生らが沼島を訪れ、地元住民と意見を交わしたり、島内の観光名所を見て回ったりした。

約600人が住む沼島では近年、過疎化と高齢化が進んでいる。それに伴い、淡路島と沼島を結ぶ沼島汽船の利用者が減り、同社の赤字を国と県、南あわじ市が補助する状態が続いている。

同委員会では、沼島の観光振興を図ることで航路の利用者を増やそうと、国の調査事業として500万円の手当で、9月2日に設立された。

この日は地元住民を含めて約25人が南あわじ市沼島出張所に集まり、2回目の会合を開いた。同監理部の職員が、旅行者が感想を書き付ける「思い出ノート」や「思い出ボード」を港に設置することを提案したほか、地元の観光ボランティアガイドがこれまでの活動実績やモデルコースの概要を説明した。その後、委員らは島内の名所を回った。

委員長の正司健一・神戸大学大学院教授(89)は「できるだけ地元住民の意見を聞きながら議論を進めたい。観光客がお金を使う仕組みも考えた」と話していた。次回の会合は11月下旬に神戸市内で開く予定。委員会は来年1月をめどに成果をまとめ、シンポジウムを開いて島の自然を生かした「観光プラン」を発表するといふ。

沼島活性化へ 提言案を発表

調査研究委

南あわじ市南部の離島・沼島の観光振興を促す「離島単独航路の維持活性化調査研究委員会」の3回目の会合が21日、神戸市で開かれた。会合は今回で終わり、来年1月に同市で開くシンポジウムで、島の自然を生かした「観光プラン」を発表する。

沼島の観光振興を図ることで、航路の利用者を増やそうと、国土交通省神戸運輸監理部と神戸大学、地元住民らが9月に委員会を設立し、現地調査などをしてきた。

この日の会合では「離島航路活性化への提言案」が発表された。各委員は小中学生向けの漁業体験の実施や、観光ボランティア「ぬぼこの会」(約20人)の支援、島を紹介するDVDの港での上映などを提案した。

今後の課題としては、観光客向けの商品づくりや、沼島行きの船が出発する土生稲家での公共交通の整備などが挙げられた。

沼島の観光どう振興

離島航路維持
神戸でシンポ
100人参加し討論

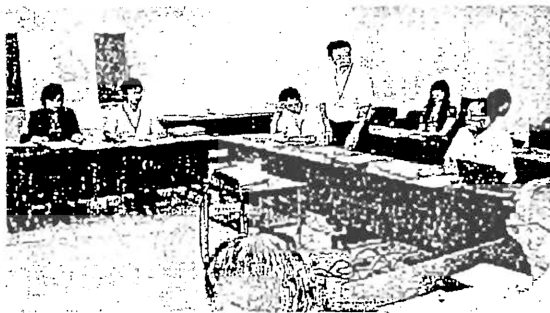
南あわじ市南部の離島・沼島の観光振興を促すシンポジウムが29日、神戸市中央区の市勤労会館で開かれた。観光客を増やして離島航路の維持を図ろうと、国土交通省神戸運輸監理部と神戸大学が主催。約100人が参加して意見を交わした。

人口約600人の沼島は過疎化と高齢化が進み、淡路島と沼島を結ぶ沼島汽船の利用者が減少。同社の赤字を国や県などが補助する状態が続いている。このため、航路の利用者を増やそうと、昨年9月、同監理部や地元住民などで作る「離島単独航路の維持活性化調査研究委員会」が設立され、現地調査や会合を重ねてきた。

シンポでは、委員長の前司健一・神戸大学大学院教授が①稚魚放流のイベント化②トイレや休憩施設の整備③あいさつや声かけの励行―などを提言。また、委員会の提案で、旅行者が感想を書き付ける「思い出ノート」を港に設置したことなどが報告された。パネル討論では、沼島にある神宮寺の中川宣昭住職が島内の名所を紹介し、「沼島を自分を取り戻せるような癒やしの空間にしたい」と話した。委員会は2月7日に沼島で調査結果の報告会を開き、解散する予定という。

沼島の活性化へ連携

国と神戸大など 初の委員会



今後の沼島は一。活発な議論が交わされた委員会＝神戸第二地方合同庁舎

神戸新聞 (H20. 09. 03)

中央区

高齢化や航路減便に悩む離島・沼島（南あわじ市）を活性化させよう

と、国交省神戸運輸監理部や神戸大学などが地元住民と連携することになり、中央区波止場町の神戸第二地方合同庁舎で二日、初の委員会が開かれた。

沼島は淡路島の南約四きにある離島で、人口約六百人。近年、淡路島と結ぶ航路の減便や人口減少に伴う過疎化が進む。

昨年、同監理部と南あわじ市との協議で、「地元住民主体の離島観光モデルを作れないか」との話が持ち上がり、活性化へ活動することになった。国交省職員や神戸大教授、住民代表ら約二十人が参加し、地元ボランティアガイドグループの取り組みや航路の現状などを報告。「観光客は急には増えない。無理なく継続できる形を」一人を招くだけでなく、主要産業の漁業といかに結びつけるかが重要」などの意見が出た。

ガイドグループ「ぬほこの会」代表の中川宣昭さんとは「現地で汗をかかれわれと、行政や理論のプロが両輪となって沼島を盛り上げたい」と話していた。

今後、神戸や沼島で委員会を開き、観光資源の生かし方などを模索する。

(安福直剛)

神戸新聞 (H20. 10. 11)

神大など住民と連携

観光活性化で沼島訪れ議論

南あわじ市の沼島を離島の観光モデルにしようと、国交省神戸運輸監理部や神戸大学などが地元住民と連携を図る委員会

が九日、現地で開かれた。約二十五人が参加し、地元の取り組みや大学の調査結果を報告。観光ガイドコースも盛り込んだ議論が交わされた。

高齢化や航路減便に悩む沼島の活性化に向けた国交省の事業。地元ガイドグループ「ぬほこの会」の中川宣昭代表が「島に元気がなくなってきたており、方向を見つめ直す時期がきて



沼島庭園を訪れた参加者＝南あわじ市沼島

いる」と報告。神戸運輸監理部の伊藤政美・企画課長は「持続的な地域づくりを進めるには、経済的な要素も必要とした。観光研究科教授は「今後の示唆を与えられるよう庭園を回り名所を見学。船で島を一周する海上周りに議論を進めたい」と話していた。（熊本 寛）

神戸新聞 (H20. 11. 22)

淡路・沼島の観光活性化策

神戸大生の調査報告

来月1月発表

高齢化や航路の減便に悩む沼島（南あわじ市）を離島の観光モデルにする魚や船を（観光に）生かしていききたい」と表明。

住民による委員会の最終会合が二十一日、中央区波止場町の神戸第二地方合同庁舎で開かれた。

沼島は淡路島の南約四きにある離島で人口約六百人。近年、淡路島と結ぶ航路の減便や過疎化が進む中、「地元住民主体の離島観光モデルをつくらねないか」と、神戸大教授や国交省職員、住民らで構成する委員会が九月に設立された。

委員会では、沼島漁業協同組合の中元靖副組合長理事が「漁師の宝である魚や船を（観光に）生かしていききたい」と表明。神戸大学生による調査研究の中間報告の後、委員長の正司健一・神戸大学大学院教授が活性化への提言案を提示。「島民主体の観光地域づくり」や「持続可能な観光」の実現を打ち出し、モデル作

成のための組織づくりなどに触れた。最終提言は、来年一月にも開かれるシンポジウムで公表される。（河尻 悟）

国生み神話ゆかりの地

沼島 離島観光モデルに

南あわじ市の土生港から出る「沼島汽船」が唯一の交通機関。一日十便が往復する。十分間の船旅だが、両島の間には中央構造線が走り、沼島に渡ると、地質も全く異なる「別世界」となる。

「忙しい現代人が、自分を見つめ直す時間を持てる場所」と語るのは、島にある神宮寺の住職中川宜昭(あき)さん。観光ボランティアガイドグループ「ぬほこの会」の代表も務める。同会は昨年三月に発足し、約三千人の観光客を案内してきた。島の見どころは多い。島の

自然の「顔」多彩 住民と官学連携

象徴は、海上にそびえる高き約三十メートルの上立神岩。中央部がハート型にえぐれており、同会事務局長の魚谷佳代子さん(あひ)は「きれいに見える」と、恋が成就するそうです」と解説する。

また、一億年前の地殻変動で生まれ、珍しい地球のしわ「鞘型褶曲」もある。鎌倉時代の武将梶原景時の墓とされる梶原五輪塔や、中宮時の庭園も島の歴史を映す。

集落は港の周辺に集中し、昭和三十年代までは映画館もあったという。だが、近年は高齢化が進み、航路の減便に悩む。

国交省神戸運輸監理部や神戸大学が、島民と連携し離島観光で活性化を図るつと、九月に初の会

合を神戸で開いた。十月にはメンバーが島を訪れ「漁業と観光をどう結び付けるか」「持続的な地域づくりには経済的な要素が不可欠」と、真剣な議論を交わした。一月をめぐに最終報告をまとめる。

ぬほこの会への観光客の問い合わせも増えているという。中川さんは「純粋に沼島を大切に思う気持ちをお忘れなさい、そんなガイドをこれから心がけたい」と語る。ぬほこの会事務局 ☎ 0799・57・0022



沼島のシンボル「上立神岩」を渡船で案内する魚谷さん＝南あわじ市沼島

淡路島の南約四・六キロにある離島・沼島。伊弉諾、伊弉冉の二神が造ったとする国生み神話の島は、古事記や日本書紀にも登場する。明治初期までは約三千人が暮らし、現在の人口は約六百八十人。そんな沼島を「離島の観光モデル」として再生させる動きが、国や大学も参加して始まった。

(南あわじ支局・橋本 薫)

離島観光モデル発信

国交省・神戸大、沼島を調査

国土交通省と神戸大は、漁業体験ツアーなど地域共同で、淡路島の南に位置する兵庫県最南端の離島、沼島（ぬしま）を対象に観光調査を始める。資源を生かした観光モデルを作成する。少子高齢化や原油高に伴う航路維持費の増大など離島を

り巻く環境が悪化する中、沼島モデルを全国の離島に発信する。沼島は淡路島の土生（はぶ）港から定期船で十分程度で、人口は約六百人。古事記で神々が最初に創造した「おのころ島」であるという伝説も残るほか、ハモなどが有名。

国交省などは九月から調査を始め、漁業体験や水産物を利用した商品開発、ボランティアによる観光ガイドなどの可能性を探る。来年一月末までに観光モデルをまとめ、シンポジウムも開く予定。

離島航路を守れ

神戸運輸監理部／神戸大

共同研究を開始

【関西】神戸運輸監理部は神戸大と共同で、兵庫県みなみあわじ市の沼島をモデルに離島航路の維持活性化についての研究を開始する。島民の暮らしと調和した観光産業を創出、離島航路を支える持続可能な離島観光モデル「沼島モデル」の作成を目指す。

7月末時点で沼島には597人が住む。全国の離島と同じく人口減少の悩みを抱えており、島民の利用だけでは将来にわたって航路を維持できないと見られている。そこで神戸運輸監理部では、近年注目を集めている漁業体験などのグリーンツーリズムや自然を生かしたエコツーリズムに着目。島の自然と調和した観光モデルづくりを目指す。

「沼島モデル」作成へ

具体的には、沼島で島巡りのボランティアガイドをしている「ぬぼこの会」など島民有志とともに、離島航路を支えることが可能になる観光産業の創出を研究。バリアフリーやホスピタリティの視点も含めて、新しいツーリズムのあり方をさぐる。

研究の成果は、神戸大が実施しているシンポジウム「二日神戸大学」で発表。離島における観光地域づくりのモデルケースとして全国へ発信する予定となっている。

現在、全国の離島では、人口減少や高齢化による輸送人員の減少、原油価格高騰、地方財政の悪化などの結果、唯一の交通手段である離島航路が危機にひんしており、その維持と活性化が共通の課題となっている。

神戸運輸監理部シンポ 「沼島モデル」発表

離島活性化へ 熱い意見交換

【関西】神戸運輸監理部
はこのほど、神戸市内で淡
路島南沖の離島「沼島」の
観光促進をテーマにシンポ
ジウムを開いた。観光の専
門家や研究者、島の住民ら
が参加しパネルディスカッ
ションを行い、離島経済と
航路の活性化について意見
を交わした。

同シンポジウムは、神戸
大学連携創造本部との共
催。同大学の正司健一教授
が地域住民を主役とし、行政
や教育機関が観光促進をサ
ポートする「沼島モデル」を
発表したほか、地域有志で
つくる観光ボランティア
「ぬぼこの会」や漁業関係
者による観光コースととも
なしの充実などと並行し
て、引き続き沼島をPRし



専門家や島の住民らが参加したパネルディスカッション

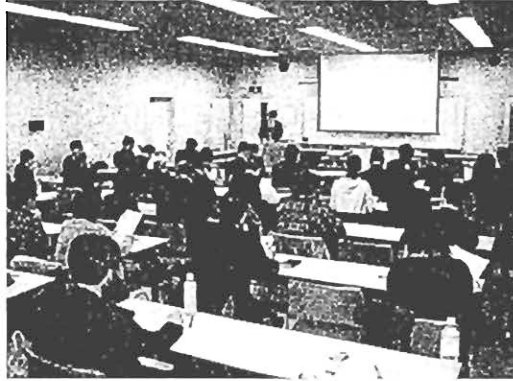
ていく方針が語られた。
パネルディスカッション
み込んだり、宿泊して名物

では、ぬぼこの会代表の中
川宜昭氏や日本旅行の平田
進也西日本営業本部チーフ
マネジャーをはじめ、産・
官・学の有識者が観光促進
へ向けた意見を発表。新し
い観光モデルとして、淡路
島観光のコースに沼島を組
み込んだり、宿泊して名物

活航路を維持する手段とし
て、観光を促すことが重要
との考えでスタート。地域
の自然環境や集落の雰囲気
を壊さずに観光客を呼ぶた
めに、歴史や文化を学びな
がらゆくり滞在する「エ
コツーリズム」の手法を採
用している。

神戸で離島航路活性化へ「沼島モデル」発表

観光交流人口の増加を通じ兵庫県の沼島／淡路島間の離島航路(沼島汽船運航)の維持・活性化策を検討してきた神戸運輸監理部と神戸大学は29日、神戸市内で「沼島モデル」シンポジウムを開き、調査研究の成果を発表した。



淡路島の南側にある離島、沼島と淡路島間には現在、島民の唯一の交通アクセスとして沼島汽船が洲本航路を週3便、灘航路を1日10便それぞれ定期運航しているが、島内の人口減少で利用客が減少し航路維持が厳しくなっている。そこで、産官学と地元島民らで調査研究委員会(委員長＝正司健一・神戸大大学院教授)を立ち上げ、島民主体の離島観光モデル「沼島モデル」づくりに取り組んできた。

シンポジウムには地元住民らを中心に約80人が参加、この中で正司委員長が①島民主体の観光地域づくりの実現②島の観光資源を把握し、資源を商品に磨き上げる③持続可能な観光の実現―など今回の沼島モデルのポイントを説明。その上で、具体的な取り組みとして、小中学生の体験の場の提供や観光客の受入施設の充実、漁業など体験メニューの提供、ホームページや両端の旅客ターミナル、船内での沼島の情報提供―などを報告した。

さらに、中長期的な課題についても触れ、「増加した来訪者が乗船料以外に島でお金を気持ちよく使える施設、仕掛け、商品を考えることも重要」と経済効果を視野に入れた取り組みを指摘。その一方で、国に対しては「事業者や利用者の努力を誘導するような」離島航路の補助制度拡大も求めた。

このあと、“カリスマ添乗員”として有名な日本旅行の平田進也氏が「選ばれる観光地とは?」と題し基調講演。さらに、沼島の観光ボランティア団体「ぬぼこの会」代表の中川宣昭氏らと交え、沼島観光の定着や地域社会との調和などについて意見交換した。

フェリー・内航情報 (H20.09.01)

☆観光による離島航路維持活性化、共同研究調査を実施

神戸運輸監理部は、公共交通活性化総合プログラムのリーディングケースを目指して、神戸大学と共同で、兵庫県南あわじ市沼島を対象に「島民主体の、島の暮らしと観光が調和した、観光交流人口増加により離島航路を支える、持続可能な離島観光モデル（沼島モデル）」を作成するための調査を実施する。沼島（人口五九七人・七月末現在）は人口減少等の悩みを抱え、航路を維持できないと危惧されている。近年注目を集めている漁業体験ができるグリーンツーリズムや自然を活かしたエコツーリズムに着目し、島巡りのボランティアガイド「ぬぼこの会」等島の有志とともに、離島航路を支える持続可能な離島観光モデルを作成するもの。神戸大学が実施しているシンポジウム「一日神戸大学」で発表し、離島における観光地域づくりのモデルケースとして全国へ発信する。スケジュールは、*九月二日Ⅱ第一回委員会、基本方針・学識経験者講演・観光資源の掘り起こし。*九月Ⅱ第一回地元部会、基本方針・地元の取組事例報告。*十月Ⅲ十一月Ⅱ第二回地元部会、沼島モデル案作成。第二回委員会、セミナー（エコツーリズム事例紹介）・地元部会取りまとめ報告。陸上・海上ルートから体験ツアー。*十一月Ⅱ第三回委員会、沼島モデルまとめ。*一月Ⅱ報告会・「一日神戸大学」、沼島モデルの紹介・シンポジウム。地元報告会、沼島モデル紹介。

フェリー・内航情報 (H20.11.24)

☆観光による離島航路活性化『沼島モデル』づくり

神戸運輸監理部が神戸大学と共同で進めてきた「兵庫県南あわじ市沼島を対象とした、島民主体による、島の暮らしと観光が調和した観光交流人口増加により離島航路を支える持続可能な離島観光モデル（沼島モデル）」づくり調査事業の、最終まとめの委員会が十一月二十一日に開かれた。

九月二日の第一回委員会では、島民ぐるみで取組むことの意義、既存のツアー取組みとの違い、無理がなく持続可能なもの等について話し合いが行われた。第二回委員会では地元部会の取組み報告、神戸大学学生の取組み報告、陸上及び海上コース体験を実施した。意見交換では、ぬぼこの会、子ども、漁業関係者の連携や、島民全体にこの取組みを知ってもらうこと等が話し合われた。今回は、沼島漁業共同組合ほか沼島関係者からの報告、神戸大学学生グループによる沼島調査取組中間報告、委員会・地元部会の意見等のとりまとめ、沼島の地域ぐるみで取組む観光・離島航路活性化への提言等を行った。なお『沼島モデル』は、来年一月二十九日のシンポジウム（一日神戸大学）で発表され、二月七日には沼島で報告会が開かれる予定。

☆離島航路維持へ「沼島モデル」シンポジウム開催

(既報のとおり)神戸運輸監理部は神戸大学と連携し、兵庫県南あわじ市沼島をモデル地域として、観光交流人口を増やし離島単独航路を支える、島民主体の持続可能な離島観光モデル「沼島モデル」を構築する調査を行ってきた。このほど、事業の総括と、これからの地域観光が目指す姿を展望するシンポジウムを、一月二十九日に神戸市勤労会館で開催する。沼島モデルプロジェクトは、小さな島の航路の維持と地域づくりにかけるがんばりを産学官民がサポート、取組みのエッセンスをモデル化し、全国に発信するプロジェクト。

当日は、観光資源の発掘、観光と生活の調和など「観光による地域づくり」をテーマに、「沼島モデル」発表のほか、基調講演『選ばれた観光地とは?』(日本旅行西日本営業本部チーフの平田進也氏)、沼島紹介ビデオ、パネルディスカッションが行われる。(参加無料、先着七〇名)要事前申込/神戸大学支援合同会社 TEL 078-881-6826)

☆「沼島モデル」、観光・離島航路活性化への提言

(既報のとおり)一月二十九日に開かれた「沼島モデルシンポジウム」では、沼島の地域ぐるみで取組む観光・離島航路活性化への提言を発表した。(詳細は神戸運輸監理部HP)公共交通とバリアフリー)

概要は、【沼島観光についての現状と取組み】観光ボランティア「ぬぼこの会」の活動で、同会が案内した島外からの来訪者は、設立初年度の平成十九年度八〇〇人を超え、二十年度は二二〇〇人強になっている。また、【沼島モデルのポイント】は、①島民主体の観光地域づくりを実現する。―離島の観光地域づくりの主役は島民自身であり、離島観光では島の暮らしと観光の調和が特に重要である。学識経験者、行政機関等も委員とする委員会の実働部隊として、「ぬぼこの会」ならびに沼島の各種団体が構成する「沼島総合開発会」からなる『地元部会』を設置する。②島の観光資源を把握し、資源を商品に磨き上げる。③持続可能な観光を実現する。―一回限りのイベント、一過性のブームではない持続可能な観光を実現することに留意する。

また、委員会・地元部会の意見等を取りまとめ、島来訪者のグループ別に具体的な取組みの方向性の紹介をする。中期の課題としては、①増加した来訪者が乗船料以外に、島でお金を気持ちよく使える施設・しかけ・商品を考えること。②沼島への交通アクセス整備の充実。③情報を共有する体制を確立すること。④事業者および利用者の努力を誘導するような離島航路補助制度―としている。

沼島の観光資源発掘へ 赤字航路再生 神大・国交省・住民で委員会(兵庫)

利用者の減少や原油高の影響で危機にある離島航路を“再生”しようと、神戸大と国交省神戸運輸監理部が連携し、2日、地元住民らと交えた調査研究委員会を設立した。南あわじ市の沼島を対象に、官学民が知恵を出し合い、新たな観光資源の発掘などに取り組む。来年1月をめどに成果を発表する。

沼島は淡路島の南約5キロに位置し、周囲約10キロで、約600人が居住。古い神話や伝承が残る。淡路島とを結ぶ2航路が島民の生活の足だが、毎年1億円前後の赤字を計上し、国などの支援を受けている状態だ。

この日は神戸市内で、神戸大、神戸運輸監理部、地元で観光案内などに取り組む住民グループ「ぬぼこの会」などでつくる委員会(13人)が発足。委員長には正司健一・神戸大教授が就任した。

同監理部の職員は低迷する航路の現状を説明。住民グループは、豊かな自然や歴史のある寺社、ハモ、アジといった豊富な水産物をPRして、「地元の活性化につなげたい」と意見した。

今後、現地の沼島でも会合を重ね、来年1月に開催するシンポジウムで新たな「観光プラン」を公表する。同監理部は「ほかの離島の参考になる息の長い観光モデルにしたい」としている。

また、同監理部は11日、流通科学大(神戸市西区)とも連携し、観光分野でミナト神戸に詳しい人材を育成する協定を結ぶ。来春から同監理部の職員らが講師となって、神戸港の歴史や文化、海運などの講義をする。

トラベルニュース[ネット配信] (H20.09.19)

離島を観光で活性化 神戸運輸監理部と神戸大が連携

人口減少などの問題から存続が危ぶまれる離島航路を観光で支えようと、このほど国土交通省神戸運輸監理部と神戸大学が連携し、兵庫県南あわじ市の沼島(ぬしま)で離島観光モデルづくり事業に取り組む。島民主体で意見を出し合い、地域が観光に持続的に取り組める土壌を醸成したい考えだ。

沼島は淡路島の南約5キロにあり、人口は約600人。淡路島とを結ぶ航路が本土との唯一の交通手段で、将来的に島民の利用だけでは航路の維持は困難とされており、維持に向けた取り組みが急務となっている。

今回の事業は、同監理部が、沼島の観光ボランティアガイドグループ「ぬぼこの会」から「島の子どもたちにつなげていける地域づくりがしたい」という声を聞き、神戸大学に連携を呼びかけた。

調査や体験ツアー、地元との話し合いを経て観光モデルを作成するが、まずは地域が観光に取り組める仕組みづくりが目的。「島の皆さんが『すぐできること』を提案したい。継続的に、意欲的に取り組んでいける土壌をつくれれば」(同監理部の伊藤政美企画課長)。

観光モデルは「沼島モデル」と名づけ、寺社など歴史遺産、ハモなど食の魅力のほか、地場産業の漁業体験と組み合わせたグリーンツーリズム、島めぐりなどを盛り込みたい考えで、来年1月に発表する。

9月2日には同監理部、神戸大学、地元などでつくる委員会が発足。地元部会は9月10日に1回目が行われ、「難しいことはいきなりできない。まずはあいさつからしていこう」という意見があがった。

伊藤課長は「同様の悩みを抱える全国の離島活性化のモデルケースになれば」と意気込んでいた。

(1) 委員名簿

(順不同・敬称略)

委 員 正司 健一 神戸大学大学院 経営学研究科教授

〃 富田 昌宏 神戸大学 経済経営研究所教授

〃 朝倉 康夫 神戸大学大学院 工学研究科教授

〃 水田 泰善 南あわじ市産業振興部次長兼商工観光課長

〃 中川 宜昭 めぼこの会代表(神宮寺住職)

〃 島津 弘 沼島連合町内会長

〃 柳 一信 沼島漁業協同組合代表理事組合長

(～第2回委員会・地元部会)

〃 中元 靖 沼島漁業協同組合副組合長理事

(意見交換会・第3回委員会)

〃 木村 一 沼島総合開発会長

〃 古谷 嶽 沼島汽船株式会社代表取締役

〃 魚谷佳代子 めぼこの会事務局長

〃 明山 修 兵庫県農政環境部環境創造局環境政策課環境学習参事

〃 伊藤 政美 神戸運輸監理部総務企画部 企画課長

〃 石定 洋子 神戸運輸監理部海事振興部 旅客課長

(事務局)

神戸運輸監理部 塚本 量敏 橘 由以子

神戸大学支援合同会社 石井 昭三 柴原 誠

(2) 委員会・地元部会の活動記録

持続可能で地域の創意工夫による離島観光モデル（沼島モデル）とするため、地元関係者による意見交換等の機会を重視し、緊密な連携のもと委員会を開催した。

現地調査においては、グリーンツーリズムやエコツーリズムなどの観光資源を活かした体験ツアーをつくるために、委員会関係者等による陸上ルート及び海上ルートからの現地調査（体験ツアー）を実施した。また、委員会により提案された沼島モデルを含め、沼島の観光資源を活かした沼島プロモーションDVDを作成し、沼島の魅力を記載したツアーガイド冊子の作成も行った。

委員会・実行委員会の活動記録

9月2日	第1回委員会 場所：神戸（神戸第2地方合同庁舎） (1) 調査概要説明・・・伊藤委員 (2) 離島航路の現状・・・石定委員 (3) 講演「沼島「幸路」をめぐって」・・・富田委員 (4) 地域づくりの方針・・・水田委員 (5) 観光資源の掘起し・意見交換・・・全員 (6) 基本方針の纏め・・・正司委員長 (7) 今後の予定確認・・・石井事務局 出席者：委員長、委員、事務局
9月10日	第1回地元部会 場所：沼島出張所大集会室 (1) 第1回委員会概要報告・・・中川委員 (2) 調査概要説明・・・伊藤委員 (3) 離島航路の現状・・・石定委員 (4) 第1回委員会意見まとめ・・・塚本事務局 (5) 観光による地域づくりの先進事例・伊藤委員 (6) 地元調査の進め方・・・水田委員 (7) テーマ「沼島を知ろう」討議・・・全員 (8) 今後の予定確認・・・石井事務局 出席者：地元部会、事務局
10月2日	第2回地元部会 場所：沼島出張所大集会室 (1) 第1回地元部会の意見まとめ・・・塚本事務局 (2) ぬぼこの会の取組み・モデルコース紹介・・・魚谷委員 (3) 沼島漁協組合の取組報告・・・島津委員 (4) 沼島白地図のまとめ報告・・・水田委員 (5) セミナー「ツーリズム取組にあたって」

	講師：神戸 YMCA 尾上常務理事 (6) 今後の予定確認・・・・・・・・・・石井事務局 出席者：地元部会、事務局
10 月 9 日	第 2 回委員会及び地元部会合同委員会 場所：沼島出張所大集会室 (1) 地元部会報告・・・・・・・・・・石井事務局 (2) んぼこの会の取組み・モデルコースの紹介 中川委員、魚谷委員 (3) 沼島漁協組合の取組報告・・・・・・・・島津委員 (4) 神戸大学による調査研究・・・・・・・・朝倉委員 (5) 意見交換・・・・・・・・・・全員 (6) 陸上モデルコース(2 時間)体験ツアー コース：出張所⇒神宮寺⇒八幡宮⇒五輪塔 ⇒沼島庭園⇒上立神岩⇒沼島港 (7) 海上周遊体験ツアー（沼島汽船） コース：沼島一周 (8) まとめ・解散（沼島港待合室） 出席者：委員長、委員、地元部会員、事務局員 ＋オブザーバー(マスコミ等)
10 月 31 日	沼島 意見交換会 場所：沼島 (1) 意見交換 ・ 子ども、漁業関係者の取組みの現状 ・ 無理なくできそうなことは何か 出席者：委員長、事務局員、沼島小中学校及び漁業関係者
11 月 21 日	第 3 回委員会 場所：神戸 （神戸第 2 地方合同庁舎） (1) 第 2 回合同委員会に関する報告・・・・・・・・石井事務局 沼島漁業協同組合・・・・・・・・中元委員代理 (2) 神戸大学による沼島調査取組み中間報告・朝倉委員 (3) 委員会・地元部会意見まとめ・・・・・・・・塚本事務局 (4) 提言案・・・・・・・・・・正司委員長 (5) 今後の予定確認・・・・・・・・・・石井事務局 平成 21 年 1 月 29 日午後 シンポジウム(神戸) 平成 21 年 2 月 7 日午後 報告会(沼島) 出席者：委員長、委員、事務局